乳鉢

私の式年遷宮物語

佐伯市医師会　田　淵　絵　美

平成25年10月伊勢神宮にて式年遷宮がおこなわれた。

持統天皇4年（690年）以来，今日まで1300年にわたり古式のままに受け継がれ，今回で62回目となる。

式年遷宮とは，20年に一度現在ある御正殿の隣(東西)に，すべての建物（内宮，外宮，別宮）と御装束神宝を新しくし，大神様に新宮にお遷り頂く最大のお祭りである。

引っ越しがお祭り？と思う方もいるでしょうが，自然に風化した宮が，遷宮により「よみがえる」のである。

「よみがえる」事で生き生きと「常若：とこわか」が保つ。震災，復興を繰り返してきた日本人の原点の様にも思える。私が最初に神宮を訪れたのは，平成9年2月17日，前回の式年遷宮から4年経過した，祈年祭の日だった。

外宮は，伊勢市駅から歩いて5分。繁華街に接しながら一歩神域に入ると，森閑とした別世界となる。

寒い日だった。参拝者も少なく，恐いくらいの静けさ。

真新しい檜の鳥居をくぐれば白絹の奥に御正殿がある。

運良く神風が吹き，白絹がめくれる。正面から神様にお会いできた。シンプルで清々しい。

内宮は外宮から車で15分。

宇治橋の大鳥居をくぐり，松の緑が美しい神宮神苑を抜け，さらに参道をすすむと森は濃くなり，玉砂利を踏む音しか聞こえない。身も心も清められた頃に御正殿につく仕組みになっている。

その後3回訪れる機会があり，16年経過した。

平成25年10月13日遷宮からわずか10日で夢はかなった。名古屋で放射線総会があり，次の日に伊勢神宮に向かった。近鉄特急は予約で一杯，急行で向かう。伊勢市駅到着。恐ろしく観光化された参道を歩き，外宮へ。

人，人，人。鳥居をくぐり森の中に入っても人。お参りまで約1時間。私の横にいた大学生男子3人衆が何やらお願い事の相談をし始めた。

足が長くなります様に，いや背が高いのがいいか。革ジャンが似合う様にと，欲望はつきない。

時間とは不思議なもので。最後は「世界平和や！」と驚きの変貌をとげた。

いつもは15分で着く内宮だが，1時間以上バスを待ち，内宮に到着。新しくなった宇治橋に拝礼し，神苑に到着。

整えられた松。日本のおもてなし。感動もつかの間，ここも人の列。玉砂利の音も聞こえない。

森の中でどの位待っただろう。みんな整列し，静か。

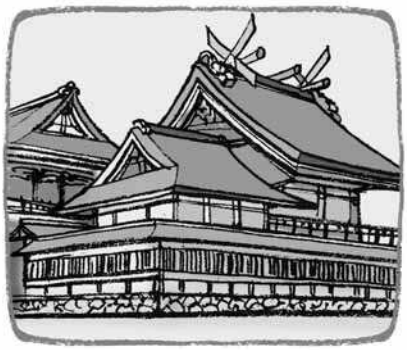
周りは子連れの美人ママや若者達で一杯。カップルの女の子が，ふとつぶやいた「やっぱり日本人やね。お行儀がいい。」思わず，笑顔になる。

待ちに待ち。私は御正殿に向い。今日のここにいる事に感謝し，みんなが平和で健康にいられます様とお願いした。

名古屋に着いたのは夜の9時。12時間の旅だった。

常若な神宮は真摯な若者であふれ，パワーで一杯だった。

是非この機会に皆様も行かれて下さい。



リレー随筆　575

乳鉢

ゴルフで息抜き？

佐伯市医師会　**中　浦　宏　幸**

私がゴルフを始めるきっかけとなったのは，医師になって9年目に大学病院の病棟スタッフとして勤務するようになった時です。当時の病棟医長の先輩医師から，「ここで一緒に働くならゴルフを始めないとダメだ！」の一言で早速ゴルフ道具を買いに走りました。最初のデビューが医局旅行でのゴルフコンペでしたが，見よう見まねで始めたばかりで当然スコアは大たたきの150でした。それからは，年に数回程度行くようになり徐々に興味がわくようになりました。その後，長年住み慣れた久留米市を後にして，8年前に佐伯市に戻り父のあとを引き継ぎ開業医として働くこととなりました。

佐伯市医師会では，佐伯ドクターズと呼ばれるゴルフコンペが月1回開催されています。1月で464回にもなりますが，佐伯に帰ってから早速このコンペにも参加させてもらうようになり，ゴルフをする回数も月1回くらいにまで増えました。そして，11年目にして初めて念願の100切りを達成することができました。その後は，100前後を行ったり来たりの状態で中々上達しない状態が続いています。

よくゴルフで息抜きをしていると言う言葉を耳にしますが本当でしょうか？朝一のティーショット時の何とも言えない緊張感は，自意識過剰かもしれませんが，コンペになると大勢の人から見られているという緊張感が悪い方向に働き，「OBを打ったら恥ずかしい」と考え，実際，朝一のティーショットはOBを繰り返していました。また，ミスショットを連発してスコアが崩れ始めると，もうやめようかなぁと考えることも多々あります。前にある恩師から「ゴルフほど悔やむスポーツはないよ。かえってストレスが溜るばかりだ」と聞いたことがあります。1日で何回納得のいくショット，パットがあるのか？断然，ナイスショットよりミスショットのほうがはるかに多く，悔やむばかりであることも多くあります。これでストレス解消になるのか？仕事の息抜きと言えるのか？とも思うこともよくあります。それでも，気の置けない仲間とのラウンドや様々なコンペに参加してのプレーは楽しいと感じます。練習場では，今日こそはいいスコアでまわりたい，目指せ，パーゴルフ！と頭に思いながらプレーに臨んでいます。ゴルフは健康でさえいればいくつになってもプレーできる唯一のスポーツです。ゴルフを息抜きとして感じるように楽しく，元気にプレーできるようにこれからも頑張りたいと思います。

リレー随筆　574

乳鉢

お酒と私

佐伯市医師会　**井　上　雅　公**

最近患者さんから「先生は結構お酒を飲むんですね」と言われる。一昨年であったか某新聞のコラムでインタビューを受けた際に「ご趣味は？」と聞かれてありきたりのことを答えてもなぁと思っているうちに「友人と居酒屋に行くことですかねぇ」と言ってしまい，記事に「趣味は医師会仲間との居酒屋巡り」と書かれたのが皆さんの目にとまったらしい。

若い頃は結構飲んだものである。東の空が白み始める頃まで先輩や同輩とスナックで飲み明かしたことも数知れずであった。中年以降は深酒は避けるようになり，最近は家で飲むことはほとんどなくなった。頂き物のアルコール類は仲間での飲み会などで有り難く使わせていただくが一人で飲むことは稀である。

さて，昨年12月に国会でアルコール健康障害対策基本法が成立したことはご存じだろうか。昔から「酒は百薬の長」(徒然草)と言われ日本人は概して飲酒や付随する問題に寛容なようであるが，ご存じのように日本民族は人種的にアルコールに対する閾値が低く過度な飲酒への配慮は必要だろう。伝記によると英国の宰相チャーチルは昼間から飲酒しながら平然と執務したそうだが，日本では想像しがたいことである。

ところで適正飲酒とはどれくらいかご存じだろうか。健康日本21[注)] では1日平均純アルコール約20g(ビール500ml)と定めているが飲み会ではちょっと無理な相談である。個人的にはせめてもの対策として適当な時間からはウーロン茶で「お茶を濁す」ようにしているが少しは効果があるような気もしている。

日常診療ではついつい患者の飲酒について甘くなりがちな日頃の態度を反省しながら次に気の置けない仲間と飲みに行く居酒屋を何処にしようかと企んでいる自分がいる。

注）21世紀における国民健康づくり運動
健康日本21(第2次)(2013年～)では，生活習慣病のリスクを高める量は
1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上，女性20g以上

リレー随筆　573

乳鉢

ギターとの出会い

日田市医師会　山　崎　世　紀

私は昨年の11月上津江産業文化祭で歌いませんか？というお誘いの中で（これは嘘で，無理に出演させていただきました，スタッフの方々申し訳ありません），村の人からいただいたギターを持っていたことで（弾いたことがなかった）強行出演しました。その時はギターを背中に回し歌だけ歌ってしまいました。これをきっかけにいろんなところで強行出演しております。当然練習はしますが習ったことがなく自己学習でコードだけで弾いております。また，弾き始めたら弾き始めたで，あっあの歌も，あっこの歌もと，歌いたくなって進歩が無いまま1年が過ぎてしまいました。1年経った今でもFのコードに問題があり，しかし，避けて通れず苦悩しております。また，上津江振興局のエントランスすなわち，入り口の響きが教会みたいで，響きがよく下手な私でもギターがボロロンと響き，歌が響き自己陶酔しながら練習をたまにしています。また，練習場所をスタジオですればいいのでしょうが，1人っきりで練習するのもどうかいなと考えて色々なところで練習しておりますが，その方々にとっては迷惑千万で，初めは快くいつでもどうぞ的な感覚のようでしたが，最近はちょっと声色が変わってきているようです。人の迷惑顧みず的なものは，いいおとな（本当かいな？）としてどうかなとも考えております。

このギターを弾くことによって自分勝手な行動や言動が人の心を少なからず傷つけているように感じる今日この頃です。（反省しているようで反省していない自分ですが）これからもギターとうまく付き合っていくためには仕事も人間関係もうまくやっていかなければ，ギターも仕事も人間関係もうまくいかなくなるのではないかいなと思っています。

リレー随筆　572

乳鉢

往診風景

日田市医師会　宮　﨑　秀　人

開業して23年経ちました。平成19年より，ひょんなことから，24時間の在宅医療を始め，もう6年経ちます。

その間，月曜から金曜日まで，週に5日間，午後いっぱい軽自動車で往診に回っています。桜が咲き，春が来て，入道雲の夏を過ぎ，一面に実った稲穂を横に見ながら，田舎道を静かに走り抜けていきます。（電気自動車なので、、）

看護師をひとり乗せて，簡単な薬といくつかの検査機械とともに，一日2時間から3時間のドライブをします。道すがらの風景を時にはカメラに撮ります。たいていは桜の花や彼岸花，紅葉や，犬，猫，蛙など，なにげない風景を撮りながら，患者さんに見せてあげたり，Facebookに投稿したりします。

ある患者さんの家の前に大きな桜の木が2本あり，その下に車を止めました。ドアを開けると花びらがひらりと車内に入ってきます。外に出てみると，大きく伸びをしたくなるような，一面の桜，不思議なもので，見るものの心をいっぺんに明るくしてくれます。

そんなときに限って，写真を撮るのは忘れてしまいますが、、、

別の日に，看護師が「先生，虹ですよ」。見上げると田舎道の向こうの端からこちらの端まで，きれいに180度かかる虹です。

あわてて，車を止めて，写真を撮りましたが，まあ，よく写っていないこと。でも，おかげでその日は一日，なんだか得したような気持ちになるのが不思議です。

山道をのぼっていて，桜があまりにきれいでしたので，小さな枝を一本いただきました。その道の突き当たりに住む老夫婦，寝たきりの夫をおばあちゃんが介護しています。

外出したがらないおじいちゃんの枕元に，そっとその枝をおき，「僕がかわりに花見してきたよ！」と。思えば去年の春は一緒に花見をしたのに、、、、

玄関で迎えてくれるのは人間とは限りません。犬，猫，そして蛙。なかには蛇，ヤモリ，迎えてくれるものは大歓迎です。ドアのノブに蛙がへばりついて，おっことすのもかわいそうなので，ゆっくり回して入りました。

猫もたくさんいます。猫はたいてい冷淡な目をして，知らぬ顔ですが，中には近寄ってきて，体を寄せる人懐っこい猫もいます。
犬はたいてい大歓迎です。吼えていても，家の中に入るといっぺんにすり寄ってきます。

クリスマスにはサンタクロースの衣装で2週間ほど往診します。道を歩くランドセルをかついだ小学生には大歓迎されます。中にはプレゼントを催促する子供もいますが，うっかり何かあげると通報されそうで，基本的にはなにもあげません。でも，その子供が家に戻って，自慢そうに自動車にのったサンタクロースを見たことを報告している光景が目に見えるようです。
余談ですが，サンタクロースは老人に大人気です。意味が分かっているのかわからないようなおじいちゃんも，興奮して喜んでくれます。

往診の風景は季節です。春，夏，秋，冬，日本の四季は，外出もできない寝たきりのお年寄りに，格好の話題です。近所に咲いている花のことを聞くと，うれしげに教えてくれさえします。会話の中で，植物の話や季節の話は，嫌いな人はほとんどいません。
往診は季節を切り取って届ける仕事だと思っているのは，たぶん日本で私だけかもしれません。

リレー随筆　571

乳鉢

自己紹介

大分郡市医師会　永　冨　　博

日ごろから地域の諸先生および関係者の皆様方には大変お世話になっております。

平成25年9月1日付けで，永冨記念病院副院長を拝命いたしました永冨博でございます。

今やわが国は世界一の長寿国となり，人口構成も高齢者の占める割合が急増しており，大分県，玉沢地域もほぼ同様のことがいえます。加えて当地域は，核家族化，若者の大都市流出により，地元には高齢者が残され，高齢者のみの家庭も少なくありません。それに加え，高齢者の有病者や，要介護者が多くなっているのが現状です。

私たちが定義する質の高い医療とは，急性期医療・急性期治療からの継続加療・慢性期疾患を有する方の急性増悪・長期継続医療，また直接的な医学的治療だけではなく，リハビリテーション・看護・介護・栄養ケア・精神面の支え・生活背景など，様々な方面からサポートを考えております。プライマリケアを行って下さる多くの先生方，医療連携，地域の皆様への医療介護提供を行うことにより，地域内で完結できる医療提供体制を常に心がけて存続できるよう，常に努力をして参ります。

また昨年の4月から大分県ラグビー協会の医科学委員長を担当しております。地域の子供たちがスポーツを行うに当たって，気軽に診療活動(健康相談・診断)を受けられる体制を整え，スポーツ障害の防止と適切な治療，また，スポーツの疾病予防や治療への活用を推進するとともに，健康状態や体力，年齢等に応じて，生涯にわたり安心してスポーツに親しめる社会の実現に貢献する所存であります。今後とも，当院の理念「お互いに尊重し同じ目線に立って信頼される医療を目指す」の実現に向けて，職員一同，一致団結し協力して取り組んでまいります。よろしくお願い申し上げます。

リレー随筆　570

乳鉢

大分市に赴任して

大分郡市医師会　矢　坂　治　彦

H25年3月より永冨記念病院に内納先生・出口先生とともに赴任してきた矢坂です。スーパーローテーション制度にて出身である大分大学で初期研修を行って以来の大分市での勤務となります。初期研修2年，整形外科医として4年目となります。

現在勤務を始めて約6ヵ月ほど経過しました。大分での仕事にて思ったことは患者さんの年齢層が若いということです。以前は田舎でしたので御高齢の方が中心だったのですが，若い方の受診が多く，またそれに伴い疾患も変わってきますので，新たに気づかされることが多く，再度気を引き締めて日々努力をしていかなければいけないなと感じているところであります。

またプライベートなことになりますと，大分には色々な施設や物があることに幸せを感じてます。僕の趣味はバスケット・筋トレ・ランニングなのですが，ちょっと移動するだけで筋トレなら南大分体育館や大洲総合体育館などのトレーニング施設があります。ランニングなら夜は照明が明るく，また多様なコースが組めますので飽きがこずに楽しめているところです。そのようなところで知り合いや友人や身内と会える機会が増えたのもうれしく思っています。

またお酒好きの私にとっては自宅の周囲にたくさんの居酒屋などがあるのはうれしい限りです。

仕事を始め，様々な刺激を大分で感じているところです。微力ではありますが，今後とも大分の医療に貢献していきたいと思いますので，どうぞよろしくお願いいたします。

乳鉢

大分市に戻って

大分郡市医師会　**出　口　　力**

私は本年4月より永冨記念病院で勤務させていただいています。個人的にうれしい事が2つあります。一つは念願と言ってもよいのですが，自分の生まれ育った大分市で仕事が出来るということです。整形外科医として12年目になりますが，駆け出しの頃に1年，市内で勤務した以外はずっと他の地で働いていました。もともと地元でみんなの役に立ちたい，貢献したいという思いがあってこの職を目指したので，ようやく願いが叶ったようでやや興奮しています。何十年ぶりの友人と再会したり，患者さんが知り合いの家族であったり，よく知る地域の話が患者さんから出たり，小さいことから患者さんとの話がはずみます。反対に，どれだけ期待にこたえられるかというプレッシャーはありますが，責任感をより強く持ち日常業務に励むよう自分のモチベーションにしていきたいと思います。

もう一つの喜びは自転車通勤です。私は無類のスポーツ好きで，いまだに現役でバスケットボールを続けています。しかし近年は年齢的な体力の低下を感じずにはいられず，何とか定期的に運動出来ないものかと悩んでいました。2年前にスポーツ自転車に出会いすっかりはまってしまったわけですが，実際にはなかなか時間を作るのが難しい。それが今回適度な距離に住むことで自転車通勤が出来ることになったわけです。片道5km，約20分の運動ですが，毎日強制的に運動が出来るのはとても助かっています。おかげで，皆さんにますます痩せているのではと心配されるくらい体が引き締まってきました。数か月でずいぶん基礎体力は向上しており，まだ5年は第一線でバスケットがやれそうです。

仕事を頑張ると楽しく運動が出来る。運動が出来ると仕事の調子が上がる。お酒の弱い私のささやかな楽しみ方です。

乳鉢

我が家のわんちゃん

大分郡市医師会　　内　納　正　一

皆さんの日々の仕事の疲れを癒すものは何でしょうか？私を癒してくれるのは我が家の2匹のわんちゃんです。名前はくう(2歳)と，もも(8か月)といいます。くうは2年前の7月にやってきました。ペットショップで目が合って，ひとめぼれで飼うことになったのですが，私自身が犬を飼ったことがなかったこともあり最初は戸惑うことが多く大変でした。しかし毎日私が帰ってくるのを待っていて，帰ってくると全身でその喜びを表現する姿を見ると仕事での嫌なことや疲れが一気に吹き飛んでしまいます。

くうはいい意味ではすごく繊細で他の犬となかなか馴染むことができませんでした。もう1匹犬を飼うことで犬と馴染んでくれるのではないかと考え，ももを飼うことにしました。ももが来てからのくうは最初こそは少し戸惑ってはいましたが徐々に慣れ今では立派なお姉さんとなりました。ももはくうと対照的で誰にでも物怖じせずに近づき懐いてしまいます。このような自由奔放なもものお蔭でくうも最近は他の犬にも慣れてきました。

2匹のわんちゃんを育てることで色々と勉強になりました。犬のトレーナーさんからの指導で犬は怒ってはいけない，ある意味褒めて育てないといけないと指導され，これは部下の指導にも言えることと言われました。今の若いものはとよく言われますが，怒ればすぐへこむし，褒めて育てればすぐつけ上がるし，若い人を育てるのは難しいものがあります。くうとももの教育が若い人たちへの教育に少しでも役に立てばと思っています。

私についてきてくれる後輩が2人います。この2人は苦楽を共にしてきた仲間です。診療もさることながら，この2人を一人前の医師として育てるのが私のこれからの仕事の1つだと思っています。患者さんにさらに良い医療ができるよう仲間とともに頑張っていきたいと思います。

乳鉢

最近のこと

大分市医師会　平　博文

下段の写真をご覧いただきたい。久住山に登った時の1枚である。クリニックの職員6名で，4月28日に初めて登った久住での1枚である。

開業して1年が過ぎた。あっという間という感である。多くの方のおかげで大過なく過ごすことができた。患者さんも少しずつ増え，ほんのわずかではあるが地域医療のお手伝いができるようになってきた。現在，クリニックの職員は11名である。開院当時のメンバーそのままで，PTが1名増員した。初めて医療事務に従事する若手から整形外科一筋23年のベテラン看護師まで経験は様々だが，皆が同じ方を向き，お互いの業務・立場を尊重しながらプロとしての責任を全うしている。チームワークが素晴らしい。これら職員のおかげで患者さんも安心して受診できるようである。花見やビアガーデン，旅行や忘・新年会，野球など何かとイベントが多いのも特長である。今回の登山もその中の1つであった。

朝5時にクリニックを出発，高速で由布院まで行き，やまなみハイウェイ経由で牧ノ戸に至った。ここから往復4時間程度の道のりであったが，途中息が切れたり，不安定な路面で滑ったり，初めて登る職員には，思いのほか大変だったらしい。ミヤマキリシマには少々早かったが，行きかう人々と挨拶を交わし，お互いの足取りを気遣いながらの道中で，頂上に登りついた時には言葉では表せない爽快感・達成感が味わえた。嫌なことも多い日常も，忘れることができた。

後日，ある患者さんとふとしたきっかけで登山の話題となり，今回のことを話してみた。曰く，「そのルートならハイヒールでも登れるわ」と。膝が悪く人工関節を施行した患者さんである。以前は登山も楽しめていたことが分かった。さらに大変な登山も出来ていたようである。再び登山が出来るようにとはいかないであろうが，なんとか通常の生活を提供できるように，より真剣に考えていかねばなるまい。個人のニーズに合わせた治療計画を立てるのが整形外科では楽しい。そして難しい。診断別に画一的な，考慮に乏しい医療しか提供できなくなったら潔く医師を辞める覚悟である。日々の忙しさで忘れがちなこの理想を思い出させてくれた最近の出来事であった。

来年は1人でも多くの職員と由布岳を目指してみたいと思う。

乳鉢

自転車のススメ

大分市医師会　工　藤　修　己

私が自転車を始めたきっかけは，平成19年に明野中央病院へ赴任し，現在も副院長をされている中村英次郎先生に勧められたことでした。

運動とは無縁の生活を送り，毎晩ワインを飲み続けた身体は，気付けばメタボ体型。

40歳を機に何か新しいことを始めようと思い，今まで考えもしなかった自転車通勤を始めることにしました。

最初は，せめて冬までは続けようと思っていましたが，面白いように体重が落ち始め体型が変わっていくのと同時に，気付けば自転車に乗ることが楽しくて仕方がなくなっていました。

はじめは通勤だけでしたが，わざわざ遠回りするようになり，休日はバテながらも50㎞のサイクリングをしてみたりと，徐々に自転車大好き人間になっていました。大袈裟かもしれませんが，今まで見慣れた道も，自転車で走ることによって景色が180度違って見え世界観が変わった思いがしました。

こうして自転車の魅力にどっぷりハマりはや5年。平成23年10月に工藤クリニックを開院。

私の欲しい欲しい病を刺激していた世界的に有名なイタリアブランド「De Rosa(デローザ)」をついに思い切って購入しました。

間近で目にするDe Rosaは，手造りの美しいクロモリフレーム(オタクです)や細部に渡り職人芸がいぶし銀のごとく施されており，見ているだけでうっとりする自転車でした。

そんな自転車ですから，嬉しくて乗りこなしたい気持ちとは裏腹に，愛車を置いてはおちおちコンビニにも行けず，チョイ乗りも出来なくなる始末。

自宅では邪魔者扱いされ，現在「デローザ様」は，院長室に大切に置かれる「床の間自転車」となっています。

皆様も是非，初めて自転車に乗れるようになって隣町まで出かけた時のあのワクワクした気分を再び味わってみませんか？

乳鉢

新米開業医

大分東医師会　**吉　良　哲　也**

昨年11月に7年余り勤務した大分医療センター循環器内科を辞し，大在で内科循環器クリニックを開業させて頂いています。今回キャリアの浅い自分にこのような投稿の機会を与えて頂き感謝しています。

勤務医時代は循環器の中でも虚血性心疾患のカテーテル治療を専門にした仕事をしていた。10年以上施設内でのカテーテル治療の責任者として従事し，苦難や重圧もあったが，自分なりに責務を果たし，ある程度の達成感もあった。近年冠動脈のカテーテル治療も薬剤溶出性ステントの出現により，治療部位の長期開存という目標は達成された。しかしその一方で抗血小板剤の2剤併用や長期投与が課せられることになり，出血合併症の出現や観血的治療が困難になるといった問題を生じた。またカテーテル治療では生命予後は改善できず，生活習慣病の改善といった2次予防の重要性も感じるようになった。

かけだしの開業医として4カ月が経過したが，準備の段階からいかに自分が今まで勤務医という枠の中で組織に守られ，世間知らずであったかを痛感した。保険審査の流れや従業員の雇用，業者との交渉などで戸惑うことが多かったが，幸い諸先輩方からの助言を頂き何とか今に至っている。

一方で開業後は自分の時間が持てて，オンとオフの切り替えができるようになった。以前は家族でたまの外食に行った際も注文を済ませる前に病院から緊急呼び出しがあり，そのまま駆けつけたことも何度かあった。今はクリニックへの電話は24時間対応しているが，時間外に電話がかかることもそう多く無く，精神的にもゆとりが持てている。

今回開業にあたり，所属していた医局，大分医療センターの先生方や共に働いた循環器内科医師，特に近隣の開業されている先生方にはご迷惑をおかけしたが，温かくお許しを頂き感謝しています。また患者さんが自分を頼って通院してもらえることの有り難さを開業して初めて理解できた。

少ない患者数に不安を募らせる毎日であるが，今までよりゆっくりと患者さんと向き合える時間があり，携わる機会の少なかった一般内科の学習にも時間を使え，充実している。しっかりと自分自身もレベルアップをし，自分を頼りにしてくれる患者さんや，近隣地域，また医師会の先生方へ微力ながら恩返しができればと思っている。